

2023 明治安田生命 J3 リーグ 第2節 vs. 松本山雅

3/12 (日) 14:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



2023 J3 順位表 第1節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	岩手	3p	+4	5	1	
2	松本	3p	+2	2	0	
	長野	3p	+2	2	0	
4	鳥取	3p	+1	3	2	
5	富山	3p	+1	2	1	
	鹿児島	3p	+1	2	1	
7	讃岐	3p	+1	1	0	
	今治	3p	+1	1	0	
	琉球	3p	+1	1	0	
10	岐阜	1p	0	1	1	----
	北九州	1p	0	1	1	AΔ
12	相模原	0p	-1	2	3	
13	YS横浜	0p	-1	1	2	
	FC大阪	0p	-1	1	2	
15	八戸	0p	-1	0	1	
	福島	0p	-1	0	1	
	沼津	0p	-1	0	1	
18	奈良	0p	-2	0	2	
	宮崎	0p	-2	0	2	
20	愛媛	0p	-4	1	5	

次回HomeGame

第3節 vs.鹿児島ユナイテッド
3/18(土) 15:00
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>
TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約10分

★

アミカ

ドミ
イン

JR
岐阜駅

today's guest : 松本山雅

2022 J3 20勝6分8敗 勝ち点66: 4位

直近の対決と結果

2022/10/15
J3 - 29節@サンアル

松本 2-1 岐阜
畑潤基 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	松本山雅
2023/03/05 J3 - 1節@ミクス 北九州 1-1 岐阜	2022/03/05 J3 - 1節@ロートF 奈良 0-2 松本
2022/11/20 J3 - 34節@長良川 岐阜 1-2 北九州	2022/11/20 J3 - 34節@サンアル 松本 1-0 相模原
2022/11/13 J3 - 33節@白波スタ 鹿児島 1-0 岐阜	2022/11/13 J3 - 33節@ユニスタ 宮崎 4-1 松本

●今年もまた、僕らの街にJリーグが帰ってくる。残念ながら非常に不本意な、4年目のJ3リーグではあるが、それでも開幕に胸躍る期待とわずかな不安は、どのカテゴリーにあっても変わらずに喜ばしいものだ、改めて実感させられる。

昨季のFC岐阜は、ベテラン選手を次々と獲得する大型補強を敢行して“3度目の正直”でJ2昇格を目指したが、その目論見は完全に裏目に出て、結果は過去最低となる14位。そこで、昨季の最終節後の挨拶で小松社長が反省の弁を口にしたとおり、今季はチーム強化の方針を大転換。7名の大卒選手が加入したほか、獲得したのはすべて20歳代の選手ばかり。大幅に選手層の若返りを図り、かつ、今季J3ではホームグロウン(HG)枠が2名に増えるが、これも4名と達成した(なお、HG枠はチームが保有できる次季A契約選手25名の上限に影響する)。そして、新監督には日本代表コーチとしてカタールW杯を戦った上野優作氏を、ヘッドコーチには昨季の北九州で指揮を執った天野賢一氏を、そしてコーチには昨季に岐阜で引退した本田拓也氏を招へいするなど、スタッフも刷新。新たな“FC岐阜のサッカー”を追求するための基礎固めとなる1年と位置づけ、今季を戦うことになった。だが、今季からJ3は20チームとなり、いよいよJFLとの入れ替えが実施される可能性がある。我々は、昨季のJ3で14位、つまり“下から数えた方が早い”チームであることを意識しなくてはならない。サッカーの質にこだわって欲しいのは勿論だが、勝利を目指さない試合で選手やチームが成長できるとも思えない。今季は、内容と成長を求めつつも、結果も重視しなくてはならない、難しい戦い方となるだろう。

今季の開幕戦は、3/5(日)アウェイ・北九州戦。両チームとも序盤から積極的に相手ゴールに迫り、シュートを狙う姿勢を強めていたが、前半20分に#10庄司悦大のスルーパスを#45ンドカ・チャールスが決めて、先制ゴールは岐阜。しかし、後半には北九州が攻勢を強めて、岐阜は耐える時間帯が続く。それでもゴールを守っていたものの、試合終盤にCKから同点に追いつかれてしまう。そして、そのまま1-1の引き分け。今季の初戦は勝点1を分け合う結果となった。勝ちきれなかったのは残念だが、開幕戦でゴールが生まれたこと、そして勝点1を奪えたことを、前向きに考えたい。ホーム開幕戦の今節こそ、今季の初勝利を、このホーム・長良川で掴み取って欲しい。

さて、今節の対戦相手は松本山雅FCだ。J3初年度の昨季は選手を大幅に補強。名波浩監督2年目体制の下で、1年でのJ2復帰を目指したが、最終順位は4位。この結果、名波監督が退任し、後任には昨季途中まで大宮で監督を務めた霜田正浩氏が就任。選手・スタッフとも大幅に入れ替えて臨み、今季J3では優勝候補と目されるチームだ。開幕戦はJ初参入の奈良とアウェイで対戦し、0-2で勝利。従って、今節も同じメンバーでのスタメン出場が予想される。その中でも注目すべきなのは、松本の中盤の要を務める#14パウリーニョだろう。この選手に攻守で中盤を支配されてしまわないよう、岐阜の選手たちの活躍を求めたい。また、岐阜の守護神も務めていた(2017~2019年)#21ビクトルが松本のゴールに立ち塞がっている。そして、今季から松本に移籍した#48藤谷壮は、岐阜の#17藤谷匠の弟だ。今季も兄弟対決が見られるかもしれない。

松本とのリーグ戦での通算対戦成績は、岐阜の3勝2分9敗・12得点18失点。ホーム戦でも2勝5敗・7得点10失点と負け越している。昨季も2敗を喫しており、今季こそは難敵を相手に、ホームでしっかりと勝利を掴み取りたい。

この3シーズン、新型コロナ感染防止対策で、スタジアムでは様々な制限が課せられてきたが、5類移行を目前にして、その制限が大幅に解除されようとしている。この長良川でも、マスクの着用は必要だが、ようやく全席での声出しが可能となり、再びスタジアムに歓声が戻ってくる。このホーム・長良川で、ユニフォームやゲーフラ・旗やタオマフでスタジアムを緑に染め、大きな声や拍手・鳴り物の音をスタジアムに響かせる、そういった日々が戻ってくる。その日常を、再び全力で楽しもう。そして試合後には、全力で戦い抜いた岐阜の選手たちと、勝利の喜びを分かち合おう。さあ、2023年・J3リーグのホーム開幕戦が、今はじまる。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第1節】北九州 1-1 岐阜

●いやー、なんだか天上界（J1・J2）では2月からシーズンが始まってみたいですが、とっても寒そうでナイターなんて罰ゲームだなと（苦笑）。そんな感じで3月に入り、ようやく暖かくなってきてのJ3開幕です。いやー、やっぱり開幕直前はワクワクしますね。特にコロナ禍で練習見学もほとんど非公開だから、新加入選手がどんな特徴があるのかとか、シーズンが始まらないと全く分からないので余計に（苦笑）。さて、開幕スタメンは……意外に昨季からのメンバー中心の構成で、新加入は3名ですね。やはり上野監督はJリーグ初采配ということもあって、確実なメンバーで固めてきたのかなという印象。そんな中、開幕スタメンを勝ち取ったルーキー・#25 和田侑樹と#26 一平ちゃん、おめでとう！

さて、実は僕、1/29（日）の関西大学との練習試合の見学に当選したので、キャンプ前に1回だけ見てるんです。んで、その時も、昨季と比べて攻守の切り替えと動きが非常に速くて、「このサッカー、ウチが90分やるの!？」ってビックリしたんです。その後キャンプに行って、さてどうなって……マジか、やっぱりこの、すげー動き回るサッカーなのか！（笑）んで、北九州も同様のコンセプトなのか、序盤から激しいボールの奪い合い。このまま続くのかなあ……と思っていたら、前半20分に、いきなり#10 庄司悦大が縦にスルーパス。えっ……と、エアポケットに入ったかのように北九州のDFの間にパスが通って、抜け出した#45 チャーが決めて、先制点&今季初ゴール！この後は再び両チームのボールの奪い合いが続く。#15 浮田健誠のシュートが決まれば、少しは展開が変わったかもなあ……で、前半終了。

後半に入ると、すぐ北九州が一気にギアを上げてきて、それに対して岐阜が受ける形になってしまう。しばらくは防戦一方の岐阜、それでも我慢して守り続け、シュートを撃たれてもゴールを割らせない岐阜。なんとか持ち直して時間が過ぎ、このまま守り切れるか……と思った後半81分に、CKをヘディングで決められて同点。その後は再びお互いに攻めるけれど、決勝点が生まれることは無く、1-1で試合終了。

うーん、開幕戦で勝ちたかったけれど、勝ちきれなかった。決定機そのものは岐阜の方が多かったけれど、その一歩前の攻撃は、北九州の方が多かったように僕は感じた。逆に言えば、岐阜はまだ攻撃の連係が整っていないけれど、相手の攻撃は、決定機になる直前に潰せているのかな、という感覚。だけど、体力が消耗してくる時間帯になると、そのプレー精度&強度が落ちてきて……まあ、まだシーズンは始まったばかり。ここから成長する姿が見られるかと思うと、希望はあるのかなと思う。ただし、ここ何年も、そう期待しながら“開幕戦がチームのピーク”だった苦行のシーズンを見させられているので……（苦笑）。今季こそは、そうではないと、僕は信じたいです。それにしても、やっぱり駅近で歩いて行ける専用スタジアムって便利ですねー。しかも繁華街も歩いて行けて、実に羨ましい限り。無いものねだりだとは自覚していますが、こういった地元の商店街や繁華街との関係は、やっぱり重要だなと改めて思います。（ささたく）

●「コレが庄司悦大だ！」……というか、今まで見てきた中で、最も美しい。そんなキャプテンのスルーパスからの先制点。コレを見られただけで、小倉まで来た価値がある。開幕戦から、こんなシーンが見られるとは。至福……？コレで勝ってくれてたなら……とは贅沢な。

好天に恵まれたこの試合。まさに観戦日和の一戦がこの素晴らしいスタジアムだったことに感謝します。ギッフィーのTシャツでもお馴染み『海無人（うみなしんちゅ）』な我々にとって、海、そして、港がすぐソコという立地に心が躍らないワケがない。そんなスタジアムが10分程度歩いたら新幹線に乗れる位置にある。オマケに、道のりの四分の一くらいは『動く歩道』。しかも、行き帰りには偉大なマンガ家のキャラクター

達がそこかしこでお出迎え&お見送り。心底、北九州サポが羨ましいよ。

さて、肝心の試合。キックオフからしばらくは押し込まれてたけど、次第にウチがペースを握り出したかな？と思ってた矢先の先制点。冒頭にも書いたけど、もうね。美しすぎるスルーパス。ワントラップの後、ほんの少し間を置いてから放たれたボールの軌道を見た瞬間に「あ、コレ、点入るね。」と。8割方はキャプテンの……、いや、チャーリーも落ち着いて決めてくれたよね。素晴らしいゴールでした。ごつつあんです！ただ、ねえ。チャンスはきっちり決めておかないとさ。先制点後のクボタンからのラストパス。一対一なのにキーパーに当てちゃったヤツとか。実にもったいなかった。しかし、チャーリーの『スルー』にはびっくらこいたよ。

で、後半。やっぱり、こうなるかって感じで、ずーっとホームチームが圧を掛けてきた。ビハインドだからね。よく耐えてたと思うんだけど。ATまであと10分。残念。

そこから終了までは共に好機を作りながら決めきれず。ドローは妥当。残念だけど、悪くない。こういう試合が見たかった。開幕戦を心からの拍手を贈れる試合にしてくれたコトが嬉しいよ。まだまだ、改善の余地があるとか、コレが続けられるのか？だとかはある。それでも、「ここ数年とは違うな。」って感じはした。楽しみだね。（ぐん、）

●J3になってから開幕戦は全部ドロー。昨季のアウェーYSCC戦もスコアレスドロー。ぼくも現地観戦しているので、『岐大通』に感想を書いていた。ちょっと読み返してみる。『（前略）試合後の周囲の反応はかなりポジティブだった。たしかに「ここ」から上がっていくとするなら、「ここ」の位置取りとしては悪くないのかもしれない』

待て待て。2023年の開幕戦、この北九州戦を観ての感想と同じだぞ（笑）。昨季も開幕戦のドローを観て「ここから上がっていくなら悪くない」と思ったってことだ。昨季は、それだけどり着いたのがあのテイタラク。ってことは、北九州戦のこのドローを観てのポジティブな気持ちも、また裏切られてしまうということ？ちょっと心配になってきた（苦笑）。

「そうじゃない」と思いたいんだけどなあ。昨季の開幕戦と違ったのは、ぼくの中のワクワク感。「完成したら面白くなる……らしいぜ」じゃない、まだ完成してないけれどワクワクして面白い、そんなサッカーを小倉では観せてくれたから。

この試合のテーマは『俺をナメンじゃないよ』かな。両チームとも。岐阜の先制点のシーン、ゴール裏はゲットしたチャーリーより先にラストパスの庄司をコールしなかったか？というような、逆スピンをかけてチャーリーのシュートポイントにピタッと入る、魔術のようなスルーパス。でも、そのシーン、庄司はフリーだった。『俺をナメンじゃないよ』と彼は思ったかもしれない。「あの位置で俺をフリーにしたら、このくらいのパスは余裕で通せる」。そんな感じのラストパスだった。一方、北九州の『俺をナメンじゃないよ』は、田坂監督。前半、あれだけ岐阜の前線に気持ちよく攻撃をされてたのに、後半の「ただ追うだけではないフォアプレス」で岐阜の守備陣を中央に封じ込めてしまう。さらに、岐阜が中を固めているから普通なら辛抱が切れて可能性の低いミドルを撃ってくれそうなものを、しっかり堪えて、まわして動かして消耗させていく。さすがだ、見事だったよ田坂監督。2点奪って逆転出来ると思っただろうな。実際、昨季の岐阜だったら決壊して1-2か1-3で負けていただろう。でも、岐阜の守備は最後までちゃんとファイトしていた。頼もしかったよ。1-1は実に納得出来る結果だった。だから、挨拶に来る選手を気持ちよく迎えることが出来た。「ここから、ここから」。頼むよ、今年こそ、そうあってよね。今年のチームは『成功』より『成長』が売りなんだから……これについては、最後に載せたコラムへ。引っ張るねえ（笑）。

最後に、羽田一平はFC岐阜のアカデミー出身でFC岐阜トップの試合に出た最初の選手、らしい。これから、こういう選手がどんどん出てきてくれると嬉しいね。（吉田铸造）

今季の岐阜に望むこと。

●明けましておめでとうございます。今季もよろしくお願ひします。

さて、ボクらの地元クラブ。兎にも角にも、願うのは『無事にシーズンが終了すること』。コロナ以降は、ただ、もう、これのみ。いろいろ思うことはあるけれど、この願ひが叶って、クラブが存続してくれるんなら、正直、カテゴリーはドコでもいい。自分はそう思ってます。もちろん、クラブや選手の目標はもっと高い所を目指していただきたい。下剋上にして天下布武の地にあるクラブであれば、狙うのはJ1とかじゃなくて『アジアの頂点』にしてほしい。何を世迷い言を……と言われても、それくらいの気概は持っててもいいんじゃないでしょうか？

とはいえ、今季は足固め。基礎を盤石にするための一年かと思ひます。自分が待望してた真っ新な監督。野心に溢れた新進気鋭の指揮官。上野さんはそういう方だと思ひます。選手編成も若手が多め。そこに実績のあるベテランがどう絡んでいくのか。楽しみです。ようやく、地方のクラブ、中小規模クラブの取るべき姿になってくれるんじゃないか。あくまで、自分個人の考えですが、そういう期待を抱いてます。ピッチの上以外のメニューには言うことなし。返って、ピッチ外でのイベントが楽し過ぎて、ピッチ内練習が始まるのにスタンド内が閑散とするくらい。あとは、ホントにメイン・ディッシュだけ。勝っても負けても「よく頑張った！」と思ひえる試合。そういう試合を期待してる。心からの拍手を贈りたい。どうぞ、よろしくお願ひします。(ぐん)

●『ムーブ・ユア・ハート』って、要するに「あなたの心を動かす」ってことでいいのかな。とりあえず、それで合ってるということで進めよう。

何が「ひとの心を動かす」のか。ひとによって異なる。最近、ぼくが心を動かされたのは、昨年11月に徳島・鳴門でめぐりあった1つの言葉(コピー)だ。高速鳴門のバス停近くに、『ウズパーク』という名のスケートボードなどの競技施設がある。高速バスまで時間があつたので練習をする少年たちをぼーっと視ていたのだけど、パーク脇のボードに書かれていたコピーに引きつけられた。『できたら成功／できなくても成長』。いい言葉だと思ひた。ポジティブに心を動かされた。

でも、この言葉を昨季のFC岐阜の場面に持ってくると、どうなるか。『ぎふマガ!』で小松社長からのメッセージ(前編)が無料公開されていたので読んでみた。前編の冒頭で、小松社長は「何が問題だったのかを明確化しなければならない」と語っている。しかし、じゃあ何が問題だったのか？、そこではほとんど語られていない。出てくるのは「FC岐阜はこうあるべきだ」という大きな絵(ビッグ・ピクチャー)と「そのためにはどうしなければならぬのか」の、クラブ経営の『方策』など。「ちょっと待って、結局のところ昨季は何が問題だったの？」は綺麗に置き去りだ。「練習の現場で起きていることや対処の内容をフロントが把握していなかった」という反省点は出てくるけど、把握していないのになんでフロントはあのタイミングで三浦監督を切れたのだろう。よくわからない。もう、これでは『できたら成功／できなかつたら失敗』ではないか。SDGsのS、「サステナブル(持続可能)」に必要なプロセスは、手垢のこびりついた表現だけどPDCA。ぼくはそう教わつた。Plan(計画)→Do(実施)→Check(検証)→Action(行動)。でも、小松社長のメッセージを読む限りでは、PD(C)Rでしかない。Plan→Do(→Checkが見えない)→Reset(初期化)。うん、まったく「サステナブル」じゃないね。

とはいえ、小松社長は嘘をついたわけではない。一昨年最終節、「FC岐阜のフィロソフィーを作る」とは言つたけれど「それ(フィロソフィー)がなにか？を話す」とは言っていない。このメッセージでも「何が問題だったのかを明確化しなければならぬ」とは言つたけれど「それ(明確化した問題)が

なにか？を話す」とは言っていないもんね。でも、FC岐阜はパートナー企業からのスポンサード・フィー以外にも、ファン・サポーターから入場料やグッズ購入費などをいただいて事業が成り立っているはず。いまみたいなやり方は「友達をなくす」と思ふんだ。

さて、今季のFC岐阜は「勝ち負けに拘らない」というタームで臨む……って、昨季最終節が終わつた時に小松社長は話してなかつた。つまり、昨季は『できたら成功』しかセールスポイントがなかつた。で、今季は『できなくても成長』がセールスポイントということなのかな。それはそれで別に構わない。というか、いいことだ。

でも、成長度って「可視化」がむずかしい(ごめん、「見える化」って表現、大嫌いな)。件の『ぎふマガ!』でのメッセージでも小松社長は「行動の成否を結果で示す必要がある。」J2昇格とか、若手がアカデミーからもっと多く育てとか」と語っている。さて、もし今季のFC岐阜が「勝ち負けに拘らずにJ2昇格って結果を出せる」んだつたら、これはもう全面降伏するしかない。勝ち負けに拘らずとも勝てるってことだからね。もう一つの「若手がアカデミーから育つ」は、これってアカデミーの責務でしょう。クラブの仕事であつてチームの仕事じゃない。

「勝ち負けに拘らない」のなら、『できなくても成長』の先に『できたら成功』がある絵図面(ミドルサイズ・ピクチャー?)は見せてほしかつたと思ふ。たとえば、「今季は『成功より成長』フェーズ、来季(2024シーズン)には昇格プレーオフ圏内に入る」とか(※2024シーズンからJ3の3~6位が参加のJ2昇格プレーオフ開催)に入るチームに育てる。だつて、FC岐阜ってプロサッカー・クラブだよ。エンターテインメント産業だよ。

一方、JFLへの降格事案も待たなし。昨季まであつた、JFLからJ3への昇格判断要件の「観客動員数」がなくなつたことで、JFL側チームが苦勞していた営業面のハードルが著しく下がつた。今季から、J3ライセンス持ちのJFLチームが優勝したら無条件でJ3の最下位はJFLに落ちる。「成長はしたけどJリーグから退場しました」では、話にならない。それこそ「完成したらなんとか」「いずれ美しいなんとか」の再来になってしまう。

開幕戦の感想でも書いたけど、『できなくても成長』のラインに乗っていると考えると、悪くなかつた。『成長』とは「できなかったことができるようになること」だ。その面では、昨季より圧倒的に期待できる。チームには、一方、クラブ上層部には、もう少し、「ファン・サポーター」という『顧客層』を見てほしいな、と。(吉田鑄造)

【謝辞】創刊300号を迎えました。

●“岐阜サポ有志によるフリーペーパー『岐大通』も、この号で創刊300号を迎えました。毎試合受け取つてくださる岐阜サポ(ほか他サポさんも含め)の皆さまのおかげです。心から感謝します。新型コロナウイルス感染症対策により「配布行為」の存続も危うくなる中、スタジアム内(入場ゲートを通り過ぎてから)での配布を可能にしてくださつたクラブ関係者の皆さまの尽力にも感謝します。おかげさまで、コロナ禍を乗り切つてこうして節目の発行を迎えることが出来ました。

200号の節目はいまから6年前、2017年8月の岡山戦。まあ、当然ですが、J2にいました(苦笑)。さて、創刊400号は、その前に2027年6月に迎える創刊20周年は、FC岐阜はどのカテにいます。それより前に『岐大通』がそこまで続くのか？という問題はあります(制作メンバーの高齢化問題は結構「待たなし」なんです)。「イラストレーター」使えるからお手伝ひしたい!という若人がいらつしやいましたら、是非お声をおかけください。(編集人:吉田鑄造)